
全力投球

K・F

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全力投球

【Nコード】

N6780B

【作者名】

K・F

【あらすじ】

弱小で大会ではいつも1回戦負けのやる気もなく覇気もないどうしようもないチームに一人の転校生が入ってからチームが変わっていくのを描いた青春???物語です!!!

プロローグ（前書き）

初めての投稿で、まだまだ文とかもまだまだですがどうか指摘など
よろしくお願いします。

プロローグ

愛知県立西南高校。　　この野球部は弱小で試合にも勝った事がない無名の高校だった。

選手達にはやる気もなく、覇気もないどうしようもないチーム。今日もいつも通りだらけた練習をして帰って行く。この高校は試合に負ける悔しささえも忘れてしまっていた。

試合はいつも接戦とも言えないいわゆる大敗というものだった・・・
大会では1回戦負けが当たり前で、周囲からの目も冷たく期待すらされていなかった。

そんなどうしようもない野球部にひとりの転校生が入った。名は南な雲天。
彼が後々野球部を変えていくことになる。

プロローグ（後書き）

またこれからも頑張って連載していくのでどうか見に来てください
m()——() mお願いします。

第1話：転校生南雲天（前書き）

2回目の投稿ですがまだまだ至らない点もあると思うので感想とう
お願いします！！

第1話：転校生南雲天

西南高校2年A組。

「初めまして、父親の仕事の都合で転校してきた南雲天ですよろしくお願ひします」

俺は自己紹介をし、先生に言われたとおりの席に座ろうと、先生が指を指している方を見てみるとそこは、真ん中の列で、一番後ろには不自然に一個だけ多い明らかに後から持ってきたと思われる机があった。

俺はそこに早足で歩いて座ると、前の席の奴がこっちを振り向いた。それだけではない。クラス全員が俺に注目していた。

「何部にはいるの？」

「野球部に入ります」と堂々と答えた。

すると今まで騒いでいたクラスが一気に静かになってしまった。まるで野球部には入らない方がいい、と言っているかのようだった。

「まあ頑張るようにな！さ、体育館に移動だ！」

先生が大きな声で言い、体育館に行くことになった。

前の奴は坊主で野球部だとなんとなく想像できた。

「お前野球部に入るのか？」

「うん」

体育館へ移動するために廊下を歩きながら、坊主頭の男子に聞かれた。

「そつか。俺は桜庭健太さくらばけんた。一応野球部のキャプテンで、ポジションはキャッチャーだ。よろしくな」

「よろしく！」

「あっ！俺のことは健太って呼べばいいからな、俺も天って呼ぶから。天はこのポジションをやりたいんだ？」

「ピッチャー！」と自信満々に言った。

「じゃあ俺らバッテリー組むかもな？丁度いま3年生が抜けてピッチャーがいらないんだ！」

「そうか、じゃあ頑張っ一緒に甲子園目指そうな！！」

俺は活気よく言った。

「はっはっは。でもよ、この高校で甲子園なんて無理だぜ」

「なんでだよ？」

「まあ、とにかく今日学校終わったら一緒に野球部のグラウンドに行こうぜ！見ればなんで無理なのか分かると思うよ・・・どっちにしてもお前のこと皆に紹介しなきゃいけないし」「わかった」

今日は始業式だったので学校が早く終わり、健太と一緒に野球部のグラウンドに向かった。

「見てみるよ」

そう健太に言われ、グラウンドの方を見てみると、そこには10人ぐらいしか部員がおらず、バットとボールを使ってゴルフをやっている奴もいれば、寝転がっている奴もいた。

本当にこんなので上手くやっていけるのだろうか・・・

突如、不安がよぎる。

「おい！皆ちよっと集まってくれ」

健太はそう言い、部員がいたらだと集まってきた。

「こいつは今日転校してきてこの野球部に入る南雲天っていうんだ皆仲良くしてやってくれ」

「南雲天です。希望ポジションはピッチャーです、よろしくお願ひします！」と頭を下げ挨拶した。

「よろしくな」とみんながそう挨拶をしてくれた。

「んじゃ、俺今日なんも持ってきてないから今日は帰るわ」

俺は健太にそう言い、足早にその場を自己紹介だけして帰った。

俺は帰りながら明日まだ入ったばかりで生意気だとは思いが、皆に真面目にやるよう言ってみようと決意した。

家に着くとご飯がすでに並べられていた。俺は気疲れしてしまっていたため、かなり腹が減っていたのであっという間に平らげた。そして風呂に入ってパジャマに着替え、すぐにベッドに潜り込んであんなにだらけてるのか、を考えながら眠りについた。

第1話：転校生南雲天（後書き）

読んでくれてありがとうございます！！
ろしくお願いします！！

感想等よ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6780b/>

全力投球

2010年10月8日21時13分発行